

堺市精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則の
一部を改正する規則

堺市精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則（平成18年規則第107号）の一部を次のように改正する。

第8条中「第33条第7項」を「第33条第9項」に、「又は特定医師による医療保護入院者（法第33条第1項・第3項又は法第33条第2項・第3項）の入院届及び記録（様式第5号の2）」を「、特定医師による医療保護入院者の入院届及び記録（様式第5号の2）又は医療保護入院者の入院期間更新届（様式第5号の3）」に改める。

第10条中「第33条の7第5項」を「第33条の6第5項」に、「特定医師による応急入院（法第33条の7第2項）届及び記録」を「特定医師による応急入院届及び記録」に改める。

第11条第1項中「行うものとし、同条第2項において準用する同条第1項の規定による報告は、医療保護入院者の定期病状報告書（様式第8号の2）により行うものとする」を「行わなければならない」に改め、同条第2項中「任意入院患者の定期病状報告書（様式第8号の3）」を「任意入院者の定期病状報告書（様式第8号の2）」に改める。

第14条中「第23条第2項第1号」の次に「（省令第28条第1項（省令第29条において準用する場合を含む。）において準用する場合を含む。）」を加える。

様式第4号中

「

3 身体合併症
ICD カテゴリー（ ）

」を「

3 身体合併症

」に、

「訪問指導等」を「訪問支援等」に改める。

様式第5号及び様式第5号の2を次のように改める。

（次のよう 別記）

様式第5号の2の次に次の1様式を加える。

（次の1様式 別記）

様式第6号中「訪問指導等」を「訪問支援等」に改める。

様式第7号中

「

病院名
所在地
管理者名

」を

病院名
所在地
管理者名

に、

次の者が応急入院したので、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第33条の6第5項の規定により届け出ます。

〔 患者自身の病気に対する理解の程度を含め、任意入院が行われる状態にないと判断した理由について記載すること。
特定医師の診察により入院した場合には、特定医師の採った措置の妥当性について記載すること。 〕

を

〔 患者自身の病気に対する理解の程度を含め、任意入院が行われる状態にないと判断した理由について記載すること。 〕

に

改める。

様式第7号の2から様式第8号の2までを次のように改める。

(次のよう 別記)

様式第8号の3を削る。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、令和6年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の際、この規則による改正前の堺市精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則の様式に関する規定により作成され、現に保管されている帳票については、当分の間、適宜修正の上、この規則による改正後の堺市精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則の様式に関する規定による帳票とみなして使用することができる。

様式第5号 (第8条関係)

医療保護入院者の入院届

年 月 日

堺市長 殿

病院名

所在地

管理者名

次の者が医療保護入院したので、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第33条第9項の規定により届け出ます。

医療保護入院者	フリガナ			生年		
	氏名	(男・女)		月日	年 月 日	日生 (満 歳)
	住所					
家族等の同意により入院した年月日	年 月 日			今回の入院年月日	年 月 日	
今回の医療保護入院の入院期間	年 月 日			入院形態		
法第34条による移送の有無	あり			なし		
病名	1 主たる精神障害		2 従たる精神障害		3 身体合併症	
	ICD カテゴリー ()		ICD カテゴリー ()			
生活歴及び現病歴	<p>〔 推定発病年月、精神科受診歴等を記載すること。〕</p> <p>(特定医師の診察により入院した場合には特定医師の採った措置の妥当性について記載すること。)</p> <p>(陳 述 者 氏 名 続 柄)</p>					
初回入院期間	(入院形態 年 月 日 ~)			年 月 日		
前回入院期間	(入院形態 年 月 日 ~)			年 月 日		
初回から前回までの入院回数	計 回					

<現在の精神症状>	I 意識 1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他 () II 知能 (軽度障害、中等度障害、重度障害) III 記憶 1 記銘障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他 () IV 知覚 1 幻聴 2 幻視 3 その他 () V 思考 1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 滅裂思考 5 思考奔逸 6 思考制止 7 強迫観念 8 その他 () VI 感情・情動 1 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁 5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他 () VII 意欲 1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷 5 精神運動制止 6 無為・無関心 7 その他 () VIII 自我意識 1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他 () IX 食行動 1 拒食 2 過食 3 異食 4 その他 ()										
<その他の重要な症状>	1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存 () 4 その他 ()										
<問題行動等>	1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他 ()										
<現在の状態像>	1 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態 5 抑うつ状態 6 躁状態 7 せん妄状態 8 もうろう状態 9 認知症状状態 10 その他 ()										
医療保護入院の必要性											
患者自身の病気に対する理解の程度を含め、任意入院が行われる状態にないと判断した理由について記載すること。											
入院を必要と認めた精神保健指定医氏名	署名										
選任された退院後生活環境相談員の氏名											
同意した家族等	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="411 1532 496 1608">氏名</td> <td data-bbox="496 1532 890 1608">(男・女)</td> <td data-bbox="890 1532 1002 1608">続柄</td> <td data-bbox="1002 1532 1082 1608">生年</td> <td data-bbox="1082 1532 1481 1608">年 月 日生</td> </tr> <tr> <td data-bbox="411 1608 496 1675">氏名</td> <td data-bbox="496 1608 890 1675">(男・女)</td> <td data-bbox="890 1608 1002 1675">続柄</td> <td data-bbox="1002 1608 1082 1675">月日</td> <td data-bbox="1082 1608 1481 1675">年 月 日生</td> </tr> </table>	氏名	(男・女)	続柄	生年	年 月 日生	氏名	(男・女)	続柄	月日	年 月 日生
	氏名	(男・女)	続柄	生年	年 月 日生						
氏名	(男・女)	続柄	月日	年 月 日生							
住所											
1 配偶者 2 父母 (親権者である・ない) 3 祖父母等 4 子・孫等 5 兄弟姉妹 6 後見人又は保佐人 7 家庭裁判所が選任した扶養義務者 (選任年月日 年 月 日) 8 市町村長											

審査会意見	
堺市の措置	

記載上の留意事項

- 1 内は、精神保健指定医の診察に基づいて記載すること。
ただし、法第34条による移送が行われた場合は、この欄は、記載する必要はないこと。
- 2 今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること。(特定医師による入院を含む。その場合は、「法第33条第1項・第3項入院」、「法第33条第2項・第3項入院」又は「法第33条の6第2項入院」と記載すること。)なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。
- 3 今回の医療保護入院の入院期間の欄は、家族等の同意により入院した日から3月を上限とした年月日を記載すること。
- 4 生活歴及び現病歴の欄は、他診療所及び他病院での受診歴をも聴取して記載すること。
- 5 平成20年3月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等を含むこととする。
- 6 初回及び前回入院期間の欄は、他病院での入院歴・入院形態をも聴取して記載すること。
- 7 現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像の欄は、一般にこの書類作成までの過去数箇月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 8 入院を必要と認めた精神保健指定医氏名の欄は、精神保健指定医自身が署名すること。
- 9 家族等の氏名欄は、親権者が両親の場合は、原則として2人目を記載すること。
- 10 家族等の住所欄は、親権者が両親で住所が異なる場合に2つ目を記載すること。
- 11 選択肢の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

様式第5号の2 (第8条関係)

特定医師による医療保護入院者の入院届及び記録

年 月 日

堺市長 殿

病院名

所在地

管理者名

次の者が、特定医師の診察の結果、医療保護入院したので、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第33条第9項の規定により届け出ます。

医療保護入院者	フリガナ			生年月日	年 月 日
	氏名	(男・女)			(満 歳)
	住所				
家族等の同意により入院した年月日	年 月 日	(午前・午後 時)		今回の入院年月日	年 月 日
					入院形態
病名	1 主たる精神障害	2 従たる精神障害		3 身体合併症	
	ICD カテゴリー ()	ICD カテゴリー ()			
生活歴及び現病歴	(陳述者氏名 続柄) [推定発病年月、精神科受診歴等を記載すること。]				
初回入院期間	(入院形態	年 月 日 ~			年 月 日
前回入院期間	(入院形態	年 月 日 ~			年 月 日
初回から前回までの入院回数	計	回			

<p><現在の精神症状></p> <p><その他の重要な症状></p> <p><問題行動等></p> <p><現在の状態像></p>	<p>I 意識 1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他 ()</p> <p>II 知能 (軽度障害、中等度障害、重度障害)</p> <p>III 記憶 1 記銘障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他 ()</p> <p>IV 知覚 1 幻聴 2 幻視 3 その他 ()</p> <p>V 思考 1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 滅裂思考 5 思考奔逸 6 思考制止 7 強迫観念 8 その他 ()</p> <p>VI 感情・情動 1 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁 5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他 ()</p> <p>VII 意欲 1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷 5 精神運動制止 6 無為・無関心 7 その他 ()</p> <p>VIII 自我意識 1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他 ()</p> <p>IX 食行動 1 拒食 2 過食 3 異食 4 その他 ()</p> <p>1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存 () 4 その他 ()</p> <p>1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他 ()</p> <p>1 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態 5 抑うつ状態 6 躁状態 7 せん妄状態 8 もうろう状態 9 認知症状態 10 その他 ()</p>		
<p>医療保護入院の必要性</p> <p>患者自身の病気に対する理解の程度を含め、任意入院が行われる状態にないと判断した理由について記載すること。</p>			
<p>入院を必要と認めた 特定医師氏名</p>	<p>署名</p>		
<p>確認した 精神保健指定医氏名</p>	<p>署名</p>	<p>診察 日時</p>	<p>年 月 日 (午前・午後 時)</p>
<p>精神保健指定医が入院 妥当でないと判断した 場合は、その理由</p>			
<p>同意をした家族等</p>	<p>氏名</p> <p>(男・女)</p>	<p>続柄</p> <p>続柄</p>	<p>生年月日</p> <p>年 月 日生</p> <p>年 月 日生</p>
<p>住所</p>			
	<p>1 配偶者 2 父母 (親権者である・ない) 3 祖父母等 4 子・孫等 5 兄弟姉妹 6 後見人又は保佐人 7 家庭裁判所が選任した扶養義務者 (選任年月日 年 月 日) 8 市町村長</p>		

事後審査委員会意見	
-----------	--

記載上の留意事項

- 1 内は、特定医師の診察に基づいて記載すること。
- 2 今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること。（特定医師による入院を含む。その場合は、「法第33条の6第2項入院」と記載すること。）なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。
- 3 生活歴及び現病歴の欄は、他診療所及び他病院での受診歴をも聴取して記載すること。
- 4 平成20年3月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等を含むこととする。
- 5 初回及び前回入院期間の欄は、他病院での入院歴・入院形態をも聴取して記載すること。
- 6 現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像の欄は、一般にこの書類作成までの過去数箇月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 7 入院を必要と認めた特定医師氏名の欄は、特定医師自身が署名すること。
- 8 確認した精神保健指定医氏名の欄は、精神保健指定医自身が署名すること。
- 9 家族等の氏名欄は、親権者が両親の場合は、原則として2人目を記載すること。
- 10 家族等の住所欄は、親権者が両親で住所が異なる場合に2つ目を記載すること。
- 11 事後審査委員会意見の欄は、堺市長への届出時点では記入を要しないが、本様式を院内で記録として保存する際には、記載しておくこと。
- 12 選択肢の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

医療保護入院者の入院期間更新届

年 月 日

堺市長 殿

病院名
所在地
管理者名

次の医療保護入院者の入院期間を更新したので、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第33条第9項の規定により届け出ます。

医療保護入院者	フリガナ		生年月日	年 月 日 (満 歳)
	氏名	(男・女)		
	住所			
医療保護入院年月日 (法第33条第1項・第2項による入院)	年 月 日		今回の入院年月日	年 月 日
			入院形態	
入院届又は前回の入院期間更新届での入院期間	~ 年 月 日 年 月 日		本更新後の入院期間	年 月 日まで
病名	1 主たる精神障害	2 従たる精神障害	3 身体合併症	
	ICD カテゴリー ()	ICD カテゴリー ()		
入院又は前回更新日からの治療の内容と、その結果(更新前の入院期間に係る病状又は状態像の経過の概要)				
症状の経過	1 悪化傾向 2 動揺傾向 3 不変 4 改善傾向			

<p><現在の精神症状></p> <p><その他の重要な症状></p> <p><問題行動等></p> <p><現在の状態像></p>	<p>I 意識 1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他 ()</p> <p>II 知能 (軽度障害、中等度障害、重度障害)</p> <p>III 記憶 1 記銘障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他 ()</p> <p>IV 知覚 1 幻聴 2 幻視 3 その他 ()</p> <p>V 思考 1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 滅裂思考 5 思考奔逸 6 思考制止 7 強迫観念 8 その他 ()</p> <p>VI 感情・情動 1 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁 5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他 ()</p> <p>VII 意欲 1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷 5 精神運動制止 6 無為・無関心 7 その他 ()</p> <p>VIII 自我意識 1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他 ()</p> <p>IX 食行動 1 拒食 2 過食 3 異食 4 その他 ()</p> <p>1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存 () 4 その他 ()</p> <p>1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他 ()</p> <p>1 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態 5 抑うつ状態 6 躁状態 7 せん妄状態 8 もうろう状態 9 認知症状態 10 その他 ()</p>
<p>医療保護入院の必要性</p> <p>(患者自身の病気に対する理解の程度を含め、任意入院が行われる状態にないと判断した理由について記載すること。)</p>	
<p>今後の治療方針(患者本人の病識や治療への意欲を得るための取組等を含む。)</p>	
<p>本更新に係る診察の年月日</p>	<p>年 月 日</p>
<p>更新が必要と診断した精神保健指定医氏名</p>	<p>署名</p>

退院に向けた取組の状況(選任された退院後生活環境相談員との相談状況、地域援助事業者の紹介状況、医療保護入院者退院支援委員会での審議内容等について)	医療保護入院者退院支援委員会での審議が行われた年月日 (年 月 日)			
---	--	--	--	--

今回の更新の直前の入院又は更新に同意をした家族等	氏名	(男・女)	続柄	生年月日	年 月 日生
		(男・女)	続柄	月 日	年 月 日生
	住所				
1 配偶者 2 父母(親権者である・ない) 3 祖父母等 4 子・孫等 5 兄弟姉妹 6 後見人又は保佐人 7 家庭裁判所が選任した扶養義務者(選任年月日 年 月 日) 8 市町村長					

今回の更新に同意をした家族等(上記の家族等と同じ場合は記載不要)	氏名	(男・女)	続柄	生年月日	年 月 日生
		(男・女)	続柄	月 日	年 月 日生
	住所				
1 配偶者 2 父母(親権者である・ない) 3 祖父母等 4 子・孫等 5 兄弟姉妹 6 後見人又は保佐人 7 家庭裁判所が選任した扶養義務者(選任年月日 年 月 日) 8 市町村長					

法第33条第8項の規定に基づき家族等の同意を得たものとみなした場合は、その旨等	<input type="checkbox"/> 法第33条第8項の規定に基づき、家族等の同意を得たものとみなした				
	家族等へ通知を発した日	年	月	日	
	家族等に示した回答期限	年	月	日	(回答期限は、通知を発した日から2週間を経過した日であることに留意)
通知をした家族等との連絡等の記録(直近2件)					
		年	月	日	(<input type="checkbox"/> 面会 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> その他())
		年	月	日	(<input type="checkbox"/> 面会 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> その他())

審査会意見	
堺市の措置	

記載上の留意事項

- 1 内は、今回の更新に当たって行われた精神保健指定医の診察に基づいて記載すること。
- 2 今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること。（特定医師による入院を含む。その場合は「法第33条第1項・第3項入院」、「法第33条第2項・第3項入院」又は「法第33条の6第2項入院」と記載すること。）なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。
- 3 本更新後の入院期間の欄は、医療保護入院者退院支援委員会で審議された入院期間に留意した上で、当該医療保護入院から6月を経過するまでの間は3月、入院から6月を経過した後は6月を上限とした期限を定めて記載すること。
- 4 現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像の欄は、一般にこの書類作成までの過去数箇月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 5 更新が必要と診断した精神保健指定医氏名の欄は、精神保健指定医自身が署名すること。
- 6 退院に向けた取組の状況の欄については、今回の更新に当たって医療保護入院者退院支援委員会の審議が行われた年月日を記載すること。また、令和5年11月27日付け障発1127第7号「措置入院者及び医療保護入院者の退院促進に関する措置について」（厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知）の別添様式2「医療保護入院者退院支援委員会審議記録」の写しを添付すること。その上で、
 - ①退院後生活環境相談員との最初の相談を行った時期やその後の相談の頻度等、
 - ②地域援助事業者の紹介の有無や紹介した地域援助事業者との相談の状況等、
 - ③医療保護入院者退院支援委員会での審議内容等について記載すること。
- 7 家族等の氏名欄は、親権者が両親の場合は、原則として2人目を記載すること。
- 8 家族等の住所欄は、親権者が両親で住所が異なる場合に2つ目を記載すること。
- 9 法第33条第8項の規定に基づき、家族等の同意を得たものとみなす場合は、「法第33条第8項の規定に基づき家族等の同意を得たものとみなした場合」にレ点を入れることとし、同意書の添付は不要であること。ただし、法第33条第6項による入院の更新に関する同意の通知をした時から更新するまでの間に、当該通知に係る家族等が、
 - ①法第5条第2項に規定する家族等に該当しなくなったとき
 - ②死亡したとき
 - ③意思を表示できないときのいずれかの事由に該当すると把握した場合には、同意を得たものとみなすことができないことに留意すること。また、同意を得たものとみなす場合は、通知をした家族等との連絡等の記録（直近2件）の欄に、直前の入院期間中、通知をした家族等と直近2回の連絡を取った際の年月日及び手段について記載すること。（通知をした家族等が親権者の両親である場合は、父又は母のいずれかと直近2回の連絡を取った際の年月日及び手段について記載すること。）
- 10 今回の更新に同意をした家族等の欄に記載がある場合は、法第33条第8項による同意を得たものとみなさないことに留意すること。
- 11 選択肢の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

特定医師による応急入院届及び記録

年 月 日

堺市長 殿

病院名

所在地

管理者名

次の者が、特定医師の診察の結果、応急入院したので、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第33条の6第5項の規定により届け出ます。

応 急 入 院 者	フリガナ		生年 月日	年 月 日生 (満 歳)
	氏 名	(男・女)		
	住 所			
依 頼 を し た 者 の 入 院 者 と の 関 係		入 院 年 月 日	年 月 日 (午前・午後 時)	
病 名	1 主たる精神障害	2 従たる精神障害	3 身体合併症	
	ICDカテゴリー()	ICDカテゴリー()		
生活歴及び現病歴	(推定発病年月、精神科又は神経科受診歴等を記載すること。)			
応急入院の必要性	(患者自身の病気に対する理解の程度を含め、任意入院が行われる状態にないと判断した理由などについて記載すること。)			
初 回 入 院 期 間	年 月 日 ～ 年 月 日 (入院形態)			
前 回 入 院 期 間	年 月 日 ～ 年 月 日 (入院形態)			
初回から前回までの 入 院 回 数	計 回			

<p><現在の精神症状></p> <p><その他の重篤な症状></p> <p><問題行動></p> <p><現在の状態像></p>	<p>I 意識</p> <p>1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他()</p> <p>II 知能 (軽度障害、中等度障害、重度障害)</p> <p>III 記憶</p> <p>1 記銘障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他()</p> <p>IV 知覚</p> <p>1 幻聴 2 幻視 3 その他()</p> <p>V 思考</p> <p>1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 滅裂思考 5 思考奔逸</p> <p>6 思考制止 7 強迫観念 8 その他()</p> <p>VI 感情・情動</p> <p>1 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁</p> <p>5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他()</p> <p>VII 意欲</p> <p>1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷 5 精神運動制止</p> <p>6 無為・無関心 7 その他()</p> <p>VIII 自我意識</p> <p>1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他()</p> <p>IX 食行動</p> <p>1 拒食 2 過食 3 異食 4 その他()</p> <p>1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存 ()</p> <p>4 その他()</p> <p>1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他()</p> <p>1 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態 4 統合失調症残遺状態</p> <p>5 抑うつ状態 6 躁状態 7 せん妄状態 8 もうろう状態 9 認知症状態</p> <p>10 その他()</p>		
<p>応急入院を採った理由</p>	<p>(家族等の同意を得ることのできなかつた理由を含め、応急入院を採った理由について記載すること。)</p>		
<p>入院を必要と認めた 特定医師氏名</p>	<p>署名</p>		
<p>確認した 精神保健指定医氏名</p>	<p>署名</p>	<p>診察 日時</p>	<p>年 月 日 (午前・午後 時)</p>
<p>指定医が入院妥当 でないと判断した 場合は、その理由</p>			
<p>事後審査委員会意見</p>			

記 載 上 の 留 意 事 項

- 1 内は、特定医師の診察に基づいて記載すること。
- 2 生活歴及び現病歴の欄は、他診療所及び他病院での受診歴をも聴取して記載すること。
- 3 平成20年3月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等を含むこととする。
- 4 初回及び前回入院期間の欄は、他病院での入院歴・入院形態をも聴取して記載すること。
- 5 現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像の欄は、一般にこの書類作成までの過去数箇月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 6 入院を必要と認めた特定医師氏名の欄は、特定医師自身が署名すること。
- 7 確認した精神保健指定医氏名の欄は、精神保健指定医自身が署名すること。
- 8 事後審査委員会意見の欄は、堺市長への届出時点では記入を要しないが、本様式を院内で記録として保存する際には、記載しておくこと。
- 9 選択肢の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

措置入院者の定期病状報告書

年 月 日

堺市長 殿

病院名

所在地

管理者名

次の措置入院者について、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第38条の2第1項の規定により報告します。

措置入院者	フリガナ			生年	年 月 日
	氏名	(男・女)		月日	年 月 日 (満 歳)
	住所				
措置年月日	年 月 日	今回の入院年月日	年 月 日	入院形態	
前回の定期報告年月日	年 月 日				
病名	1 主たる精神障害	2 従たる精神障害	3 身体合併症		
	ICD カテゴリー ()	ICD カテゴリー ()			
過去6か月間(措置入院後3か月の場合は3か月間)の仮退院の実績	計	回	延日数	日	
過去6か月間(措置入院後3か月の場合は過去3か月間)の治療の内容とその結果 〔問題行動を中心として〕 記載すること。					
今後の治療方針(再発防止への対応含む)					
処遇、看護及び指導の現状	隔 離	i 多様 ii 時々 iii ほとんど不要			
	注意必要度	i 常に厳重な注意 ii 随時一応の注意 iii ほとんど不要			
	日常生活の 介助指導 必 要 性	i 極めて手間のかかる介助 ii 比較的簡単な介助と指導 iii 生活指導を要する iv その他 ()			
退院に向けた取組の状況 (選任された退院後生活環境相談員との相談状況、地域援助事業者の紹介状況等について)	選任された退院後生活環境相談員 () 地域援助事業者の紹介について本人や家族等からの求め又は必要性の有無 (あり・なし) 上記で「あり」の場合の紹介状況 ()				

重大な問題行動（Aはこれまでの、Bは今後起こるおそれある行動）		現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像（該当のローマ数字及び算用数字を○で囲むこと。）	
1 殺人	A B	<現在の精神症状>	
2 放火	A B	I 意識	
3 強盗	A B	1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他（ ）	
4 不同意性交等	A B	II 知能（軽度障害、中等度障害、重度障害）	
5 不同意わいせつ	A B	III 記憶	
6 傷害	A B	1 記憶障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他（ ）	
7 暴行	A B	IV 知覚	
8 恐喝	A B	1 幻聴 2 幻視 3 その他（ ）	
9 脅迫	A B	V 思考	
10 窃盗	A B	1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 滅裂思考 5 思考奔逸	
11 器物損壊	A B	6 思考制止 7 強迫観念 8 その他（ ）	
12 弄火又は失火	A B	VI 感情・情動	
13 家宅侵入	A B	1 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁	
14 詐欺等の経済的な 問題行動	A B	5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他（ ）	
15 自殺企図	A B	VII 意欲	
16 自傷	A B	1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷 5 精神運動制止	
17 その他 （ ）	A B	6 無為・無関心 7 その他（ ）	
		VIII 自我意識	
		1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他（ ）	
		IX 食行動	
		1 拒食 2 過食 3 異食 4 その他（ ）	
		<その他の重要な症状>	
		1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存（ ）	
		4 その他（ ）	
		<問題行動等>	
		1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他（ ）	
		<現在の状態像>	
		1 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態	
		4 統合失調症等残遺状態 5 抑うつ状態 6 躁状態 7 せん妄状態	
		8 もうろう状態 9 認知症状態 10 その他（ ）	
診 察 時 の 特 記 事 項			
本報告に係る診察年月日		年 月 日	
診 察 し た 精神保健指定医氏名		署名	

審 査 会 意 見	
堺 市 の 措 置	

記 載 上 の 留 意 事 項

- 1 内は、精神保健指定医の診察に基づいて記載すること。
- 2 今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること。（特定医師による入院を含む。その場合は、「法第33条第1項・第3項入院」、「法第33条第2項・第3項入院」又は「法第33条の6第2項入院」と記載すること。）なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。
- 3 重大な問題行動の欄においては、Aはこれまでに認められた問題行動を、Bは今後おそれのある問題行動を指し、該当する全ての算用数字、A及びBを○で囲むこと。
- 4 現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像の欄は、一般にこの書類作成までの過去数箇月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 5 診察時の特記事項の欄は、被診察者の受診態度、表情、言語的及び非言語的なコミュニケーションの様子、診察者が受ける印象等について記載すること。
- 6 診察した精神保健指定医氏名の欄は、精神保健指定医自身が署名すること。
- 7 退院に向けた取組の状況の欄については、退院後生活環境相談員との最初の相談を行った時期やその後の相談の頻度等や、地域援助事業者の紹介の有無や紹介した地域援助事業者との相談の状況等について記載すること。
- 8 選択肢の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

任意入院者の定期病状報告書

年 月 日

堺市長 殿

病院名
所在地
管理者名

次の任意入院者について、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第38条の2第2項の規定により報告します。

任意入院者	フリガナ			生年月日	年 月 日生
	氏名	(男・女)		年月日	(満 歳)
	住所				
任意入院年月日 (法第20条による入院)	年 月 日			今回の入院年月日	年 月 日
				入院形態	
前回の定期報告年月日	年 月 日				
病 名	1 主たる精神障害	2 従たる精神障害		3 身体合併症	
	ICD カテゴリー ()	ICD カテゴリー ()			
過去12か月間の治療の内容とその結果(過去12か月間の病状又は状態像の経過の概要並びに過去12か月間に行動制限が行われた際はその必要性について)					
症 状 の 経 過	1 悪化傾向 2 動揺傾向 3 不変 4 改善傾向				
任意入院継続の必要性 (通院へ変更ができない理由について具体的に説明すること)					
今後の治療方針					

<p><現在の精神症状></p> <p><その他の重要な症状></p> <p><問題行動等></p> <p><現在の状態像></p>	<p>I 意識 1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他 ()</p> <p>II 知能(軽度障害、中等度障害、重度障害)</p> <p>III 記憶 1 記憶障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他 ()</p> <p>IV 知覚 1 幻聴 2 幻視 3 その他 ()</p> <p>V 思考 1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 滅裂思考 5 思考奔逸 6 思考制止 7 強迫観念 8 その他 ()</p> <p>VI 感情・情動 1 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁 5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他 ()</p> <p>VII 意欲 1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷 5 精神運動制止 6 無為・無関心 7 その他 ()</p> <p>VIII 自我意識 1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他 ()</p> <p>IX 食行動 1 拒食 2 過食 3 異食 4 その他 ()</p> <p>1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存 () 4 その他 ()</p> <p>1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他 ()</p> <p>1 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態 5 抑うつ状態 6 躁状態 7 せん妄状態 8 もうろう状態 9 認知症状態 10 その他 ()</p>
<p>本報告に係る診察年月日</p>	<p>年 月 日</p>
<p>診断した主治医氏名</p>	<p>署名</p>

<p>審査会意見</p>	
<p>堺市の措置</p>	

記載上の留意事項

- 1 内は、主治医の診察に基づいて記載すること。
- 2 今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること。（特定医師による入院を含む。その場合は「法第33条第1項・第3項入院」、「法第33条第2項・第3項入院」又は「法第33条の6第2項入院」と記載すること。）なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。
- 3 入院後の診察により精神症状が重症であって、かつ、慢性的な症状を呈することにより入院の継続が明らかに必要な病状であること等により1年以上の入院が必要であると判断される場合には、「任意入院継続の必要性」の欄にその旨を記載すること。
- 4 入院時より6か月の間に、開放処遇が制限された者の6か月経過時の報告においては、「過去12か月間」とあるのは、「過去6か月間」と読み替えること。
- 5 現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像の欄は、一般にこの書類作成までの過去数箇月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 6 診断した主治医氏名の欄は、主治医自身が署名すること。
- 7 選択肢の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。